

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772500344		
法人名	医療法人 社団 日新会		
事業所名	グループホーム夢の森		
所在地	喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着を目指し、独自に新聞の作成・配布等にて情報の発信に努め、地域ボランティア等の受け入れを率先して行い、その事が、利用者様と地域のつながり、又、日常生活の活性化にも生かすことができるよう働きかけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域との交流を深め、地域で生活する住民の一人として暮らせるよう地域との関わりを積極的に推進している。
2. 運営推進会議では、各委員から事業所の抱えている課題等について意見や助言を頂き、運営とサービスの向上に活かす取り組みがなされている。
3. 職員が利用者の声に寄り添った支援に努めており、利用者の表情も明るく和やかで、アンケートからも事業所に対する家族の信頼も厚いと思料される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人と人とのつながりを大切にし、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるよう、理念に基づいたサービスを実践できるよう努めている。	法人理念と行動指針を事業所内に掲示し、法人理念に沿った実践となるよう努めている。	法人理念に則り、事業所として地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員でつくり、サービスの実践につなげて欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会組織に加入させて頂いている。今年度は町民運動会参加や役場玄関前にあさがおを植えた鉢を置かせて頂き、地域の方々との交流を深められるよう努めている。	地域の自治会に加入し、広報の回覧や地域行事への参加、公共施設に鉢花を飾り、地域との交流を深めている。また、地域のボランティアや中学生の除雪ボランティアの交流を通し、地域の方とのふれあいを多く持つよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や3カ月に1回の広報(新聞)を通し発信しているが、地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議により、ホームでの取り組みを報告・相談し意見を基にサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では、事業所の取り組みや運営状況を報告し、課題等について意見や助言をいただき、出された意見、助言を運営、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会に出席し、市の担当者の方々と共に情報を交換している。又、災害時の連絡網に協力して頂いている。	管理者は市の担当者と会議や利用者状況報告等の情報交換で深め、市の担当者も事業所の実情を把握し課題解決に協力していただける関係が形成されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを全職員が理解している。	事業所として身体拘束をしないことを方針としている。身体拘束のないケアについて勉強会を開催し、共通認識と理解を深めサービスの提供に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が起こらないよう勉強会を通し、共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者がいない為支援はしていないが、資料に基き、各自勉強をし理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に説明し、御理解を得た上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については気軽に話ができる環境作りに配慮し、気持ちを引き出せるよう努めている。家族については面会時話しやすい雰囲気作りに心がけている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を把握し、家族等は面会や家族会開催時、事業所の行事に参加を頂きながら意見や要望を聞く機会を設け、出された意見等を運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は職員会議を開催し、全員で話し合える機会を設けている。又、日々の申し送り時職員の気づきを話し合い、運営・ケアサービスに反映できるよう努めている。	管理者は会議や日常業務の中で職員の意見や提案を聞く場を設け、出された意見、提案を運営に反映している。また、法人の職員面接と法人管理者会議の中で職員の意見をくみ取る仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は法人運営に努め、職員の働く意欲向上や質の確保を担っている。又、介護職員処遇交付金を処遇改善手当として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の定期的な勉強会他、外部研修会に交替で出席するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人とのグループホームの管理者会議を毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。又、法人主催の勉強会や市のグループホーム連絡会に出席し、意見交換できる機会を設けてサービスの質を向上できる取り組みしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族・相談員・ケアマネから、状態や現状を伺いケアサービスに反映できるようにしている。入所前の情報を基に職員同士で話し合い、コミュニケーションを図りながら、困っている事・不安な事を聞き出し、安心できる生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や契約時に、これまでの介護の経過や現在困っている事、不安な事を時間をかけて聴き、今後の援助に家族の思いが反映できるよう話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人や家族にとって今何を必要としているのかを見極めた上、他の施設利用を含めた対応、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と接する際、笑顔で尊敬の気持ちを持ち、利用者から教えて頂いたり、頼りにされたりとお互い支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、利用者と一緒にお茶を提供し、プライバシーに配慮しながら歓談して頂いている。又、毎月のお便りで日常の様子を報告し、季節の行事にも参加して頂けるよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ外出支援、家族との面会や外出・外泊にて、大切な人との関係が途切れないよう支援している。	利用者や家族から馴染みの人や場所との関係を把握し、行き付けの美容院や自宅等への外出と個別ケアの日を設け、家族の協力を得ながら関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつやの時間やレクリエーションの時間で、利用者同士会話できる環境作りに努めている。常に目配り気配りし、トラブルを少なく皆が楽しく過せるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と連絡をとり、最近のご様子を伺っている。又、気兼ねなく来所できるよう声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン変更時、本人への希望、意向の聞き取りを実施している。合わせて家族へも来所時に、勤務職員が随時聞き取りを実施している。	家族の話や日常生活の中から、利用者の思いや希望を把握している。意思疎通の困難な利用者には、生活の中での仕草や表情、行動から本人本位に全職員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、基本情報を作成している。その際、本人・家族のみならず、担当ケアマネ、入院であれば医療機関へ情報提供を依頼し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に起床・就寝時間を記録すると共に、毎朝9時バイタルチェックを実施し、体調について聞き取りを行っている。顔色・表情の観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時、職員がほぼ揃う為、その時にサービス担当者会議を開催している。その他必要に応じ話し合いを実施している。	3ヶ月毎に見直しを行い利用者、家族の意向を反映し、全職員で意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化に対応した見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録簿を活用しながら職員間での情報は共有し、実践、統一した介護対応、介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りの個別支援検討や、看取りの協議等、個別の要望に応じた支援の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の生活歴を把握し、かかりつけ医への受診や、馴染みの床屋への連絡介助し、場合によっては送迎介助等を行い、出来るだけ入所前の生活に近づけるよう、又以前からの人間関係も疎遠にならぬよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も、同じ医療機関への受診対応を主としている。又、入所後の生活・身体状況の報告等をかかさず行き、医療機関との連携を計っている。	送迎は主に事業所が行い本人や家族の希望のかかりつけ医を受診し、結果を家族と情報共有している。緊急時も適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はおらず、又、訪問看護等も行っていない。しかし、協力医療機関の看護師等に相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院・退院された事例はなかったが、そうした場合には、病院関係者と身体や生活状況等の情報交換と共有を計るようにする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないが、身体状況の把握は日々行っており、変化があればその都度主治医や、家族への連絡や報告・話し合いを行い、家族の意向に出来るだけ添えるよう努めているが、本人を交えての話し合いは、本人の心身状況もあり行うのは難しい。	入所時に重度化、終末期に事業所としてできることを本人や家族と話しあい支援しているが事業所の指針を文書化したものはない。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできることをまとめた指針の作成が望まれる。また、家族と話し合い同意書を作成するとともに、重度化、終末期の対応について職員研修をして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急講習の受講を行い、職員間でも日々多種多様なアクシデントに対応出来るよう、ディスカッションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の避難訓練を行い、夜間災害発生時を想定しての訓練も行っており、訓練時は消防署員・運営推進委員の参加も頂き、訓練後はその方々を交えての評価を行い、地域の方々の助言も頂いている。	年3回の避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定し消防署員の立会、指導も得ている。また、自治体等との非常連絡網を構築している。	職員が1人になる夜間時の火災、地震等の災害対応を全職員が身につけられるよう訓練回数を増やすなど検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴、性格を把握し、行動や表情を見て、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけに努めている。	誇りを損ねない声かけや羞恥心に配慮した対応をしている。 個人情報管理も全職員で管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で信頼関係を築きながら、本人の思いに寄り添い希望を引き出し、希望に添えるよう又、自己決定ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険のないよう目配りしながら、利用者のペースに合わせて、一人ひとりの希望に添った暮らしができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に衣替えし、好みの洋服が着れるよう支援している。理容は家族協力のもと馴染みの店に連れて行って頂いたり、地域の理容店への送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理は衛生面に留意しながら共に行っている。会食時は、楽しく食事ができるような雰囲気作りに努めている。	日常の会話やチラシで季節の好みの食べ物を把握し利用者と共に調理、会食している。また、自分が配膳等の作業をすることの喜びを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎食ごとに記録し、その情報を共有し、その方の好みや食習慣を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自力されている利用者は声かけの支援、それ以外の利用者は歯磨きの見守りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄能力に合わせた支援を行っている。	表情や排泄チェック表で排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、排泄の自立に向けた支援をしており、その効果も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけを行っている。便秘予防にヨーグルトやオリゴ糖を取り入れている。又、毎日のテレビ体操、ホールでの運動など、個々に応じて便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、日時・時間帯を決めて支援している。	入浴は週3回午後の時間帯に行っているが、入浴のタイミングや入浴拒否者への支援は全職員で対応を検討したり、季節の菖蒲湯、ゆず湯など入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりのペースに合わせており、日常の活動等により安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の内容や量等、説明書にて理解に努めている。処方変更時、診療記録に記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを把握し、炊事や掃除・洗濯物干しなど、得意とする事を活かし、役割を持って頂く。地域ボランティアなどを受け入れ、楽しめる支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数・日程など希望日とはいかないが、散歩など行っている。家族会にて春の花見、秋はぶどう狩りに出掛け、利用者様の家族との交流を深めている。又、個別にて気分転換に外へ出て職員との絆を深めている。	天候の良い時は希望にそって散歩、買い物など外出支援をしているが、震災後はその回数が少なくなっている。季節の花見、ブドウ狩りなども実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在においては、全利用者の金銭管理を全面的に行っている。又、希望時については、要望を聞き入れ、職員が物品の購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用時、プライバシーを尊重し随時対応している。又、年賀状・暑中見舞ハガキ等、家族・知人に出す際、自筆にて思いを書いて頂き親睦を深められるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファスペース、コタツを配置し、安全確保の上家庭的な環境・雰囲気作りと安心感の提供に工夫している。又、壁面には季節感を取り入れた自作品、装飾を展示し五感に刺激ある環境作りに心がけている。	暖かく、明るく、ゆとりが感じられる共有空間である。花、鉢植え、行事写真、利用者と共同の季節の作品で飾り、居心地良く生活できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファスペースを設け、面会時いつでも自由に歓談して頂いている。又、気の合った利用者同士ゆったりと寛ぎコミュニケーションを取られるよう工夫、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自然の素材を活かした木製のベットを用意し、空間には、その人らしい思い出深い馴染みの品々、家族の写真、自作品の展示、興味の物等を取り揃え、日々の生活が活かされ過ごされるよう配慮、工夫等の取組をしている。	本人、家族と話し合いベットの配置や馴染みの枕、毛布、写真、作品、ポータブルトイレ、位牌等持ち込み、安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの体調、習慣を活かし、生活環境に活動性を発揮できるよう、少しでも戸惑い等がない大きな文字の表示を利用し、安全性を配慮した環境作りに努めている。		